

【受益者の皆様へ】

2016年9月28日

野村アセットマネジメント株式会社

「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-09」「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2015-06」 の基準価額の動きと投資環境について

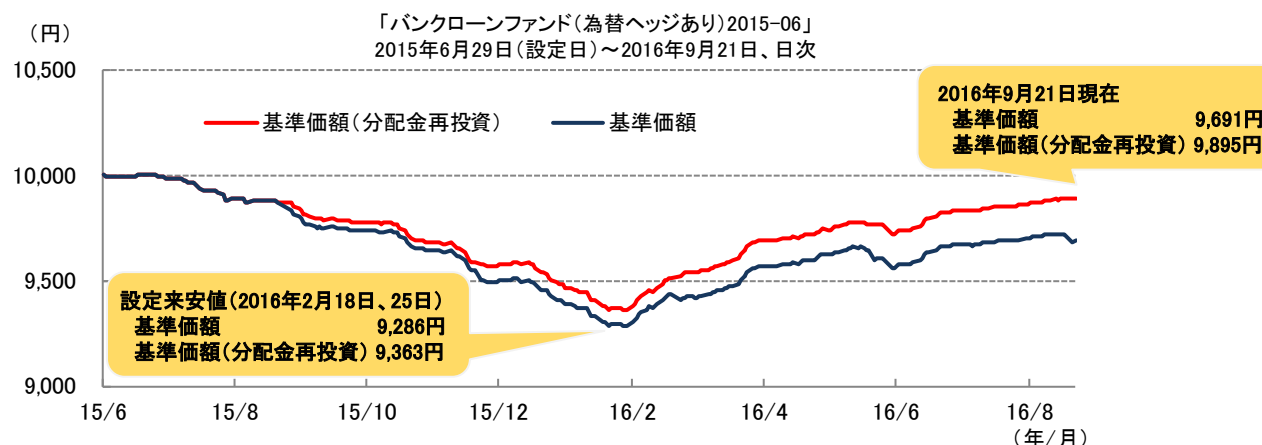
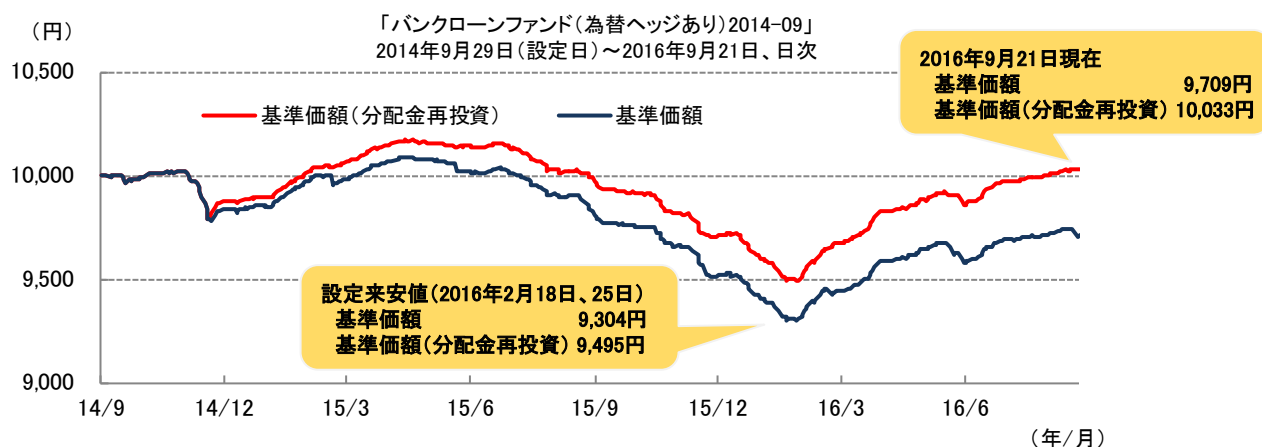
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2014-09」「バンクローンファンド(為替ヘッジあり)2015-06」(以下、各ファンドといいます。)の基準価額の動きについてご案内いたします。あわせて、バンクローン市場の足元の投資環境ならびに今後の見通しについてご説明いたします。

基準価額の動きについて

各ファンドの基準価額は、バンクローン市場における需給の緩みや投資家心理の冷え込みなどから、2015年後半から下落基調となりました。しかし2016年2月下旬には、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから、各ファンドの基準価額は上昇に転じました。2016年6月下旬には、英国のEU(欧州連合)離脱を問う国民投票の結果を受けてやや不安定な値動きとなりましたが、その後は米国経済に着実な回復が見られたことや、原油価格が反発したことで投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどを背景に上昇しました。

各ファンドの設定来の基準価額推移



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等を実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。

バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2014-09
 バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2015-06

以下は、ファンドにおいて実質的にバンクローン等の運用を行なうドイツ・インベストメント・マネジメント・アメリカズ・インクによる情報提供を基に作成しています。

ファンドの設定来の運用環境について

回復基調にある米国経済や主要国における低金利環境を背景に底堅く推移

足元のバンクローン市場は、2016年6月に行なわれた英国でのEU(欧州連合)離脱の是非を問う国民投票で離脱派が多数となったことで不安定な動きとなったものの、回復基調にある米国経済や主要国における低金利環境を背景に底堅く推移しており、2016年8月末現在の年初来騰落率は+6.8%となりました。

需給面では、機関投資家からの資金流入は概ね安定している一方、個人投資家は慎重な動きを見せています。また、デフォルト率は2016年8月末現在で2.0%となっており、過去の平均を下回る水準となっています。

バンクローン指数と各資産の推移

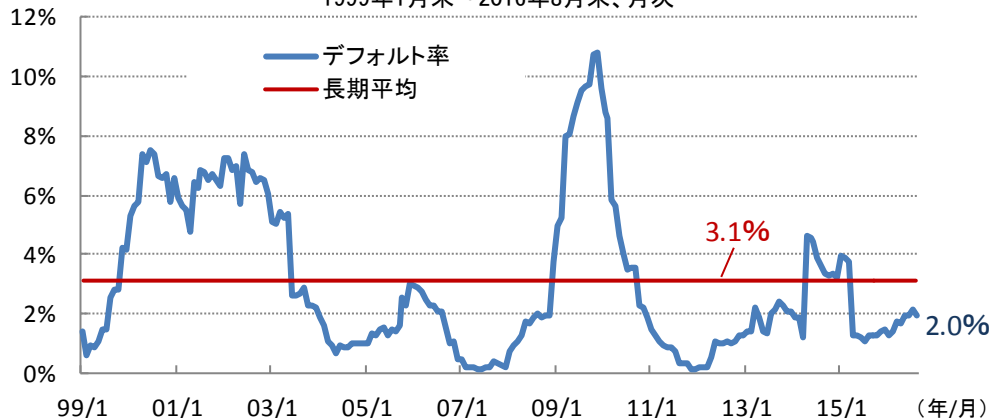
2014年8月31日～2016年8月31日、日次



バンクローン:S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス、米国ハイ・イールド債:BofA・メルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス、米国リート:S&P米国リート指数、米国株式:S&P500株価指数(配当込み)、すべて米ドル建てです。
 (出所)ブルームバーグ等のデータを基に野村アセットマネジメント作成

バンクローン市場のデフォルト率

1999年1月末～2016年8月末、月次



バンクローン市場:S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス(米ドル建て)
 (出所)S&Pのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。
 ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等を実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。

今後の投資環境について

過去の急落時のバンクローン指数は、その後着実に回復

今後の見通しとしては、米国経済は着実な回復軌道に乗っていることから、バンクローン市場におけるデフォルト率も現状の水準を維持すると考えています。また原油価格が安定していることは、特に原油・ガスセクターにとって好ましい市場環境だと言えるでしょう。

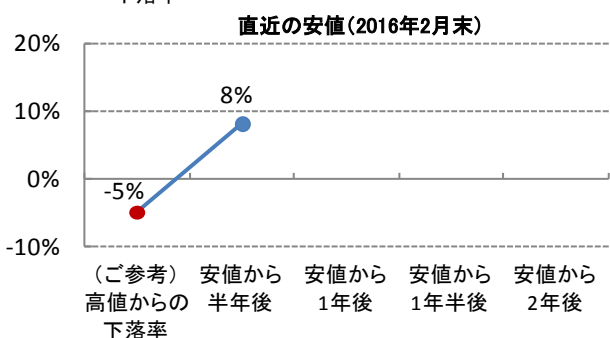
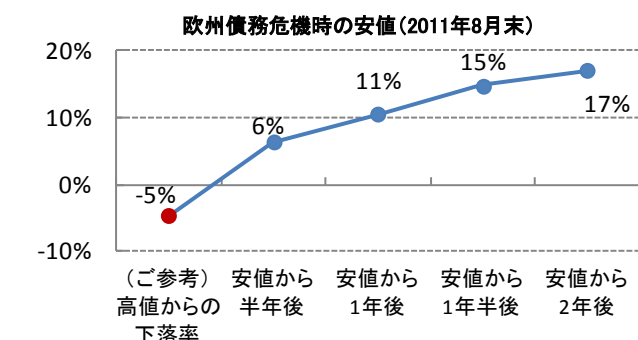
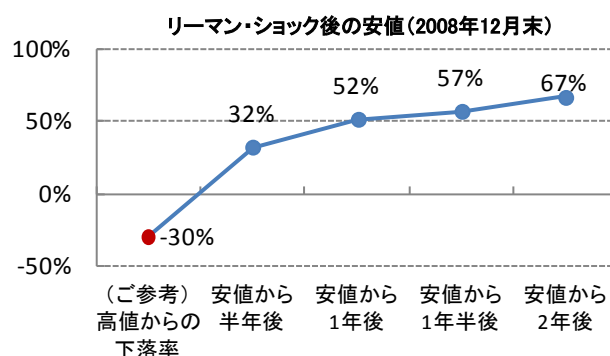
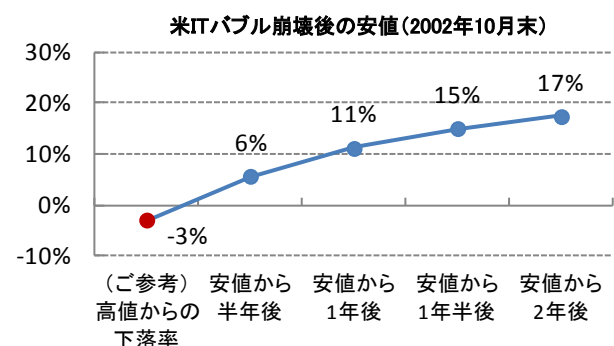
参考までに過去の下落局面を見ると、バンクローン指数の算出が開始された1996年12月末以降、高値から3%以上下落した局面※は4回ありました。2015年以前の過去3回について、安値をつけた月からのパフォーマンスを見ると、大幅に上昇していることが分かります。なお、2016年2月末には高値から5.0%下落しましたが、2016年8月末までの半年間で8.1%上昇しました。

※月末値で比較した際の過去24ヵ月高値からの下落率で判定。下落が継続している期間を一つの局面とする。

<ご参考> バンクローン指数が安値をつけた月と高値からの下落率(月末値ベース)

安値をつけた月		バンクローン指数の下落率
2002年10月末	米ITバブル崩壊後の安値	-3.2%
2008年12月末	リーマン・ショック後の安値	-30.1%
2011年8月末	欧州債務危機時の安値	-4.7%
2016年2月末	中国景気への懸念などを背景とした商品市況の低迷	-5.0%

<ご参考> バンクローン指数が安値をつけた後の上昇率(月末値ベース)



バンクローン指数:S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス(米ドル建て)
 (出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。
 ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等を実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。

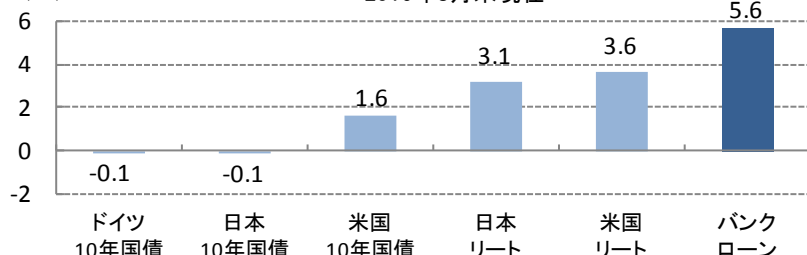
バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2014-09
 バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2015-06

世界的な低金利環境の中、相対的に高い利回りが注目されることが期待されます。

主要国の市場金利が低位で推移する中、バンクローンの相対的に高い利回りが注目されやすい環境にあると言えます。金融市場において不透明感が広がる局面では、価格変動(キャピタルゲイン)が不安定になることもあります。利子収入等(インカムゲイン)によってパフォーマンスが支えられる効果が期待できます。

各資産の利回り比較

(%) 2016年8月末現在



ドイツ・日本・米国10年国債: ブルームバーグ・ジェネリック、
 日本・米国リート: S&P各国リート指数、バンクローン指数:
 S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス(米ドル建て)

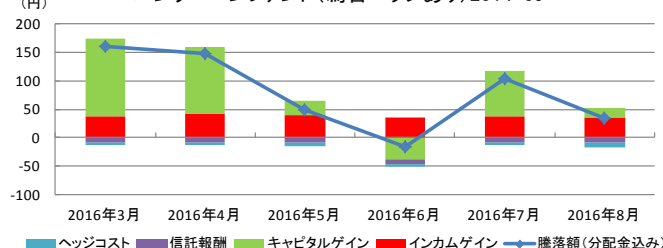
(出所) ブルームバーグ、FactSet、S&Pのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。
 ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

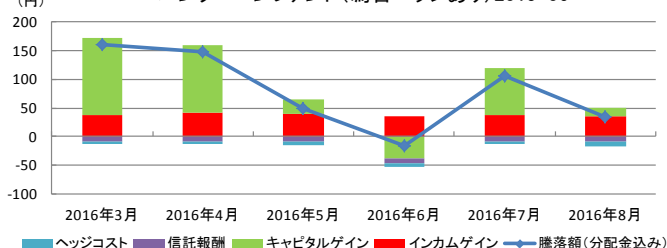
基準価額(分配金込み)変動の要因分解(概算)

2016年3月～2016年8月、月次

バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2014-09



バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2015-06



上記の要因分解は、一定の仮定のもとに委託会社が試算したものであり、月次の基準価額騰落額の要因を円貨にて表示しております。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

今後の運用方針について

引き続きボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を基礎とし、市場動向を注視しつつ機動的に対応します。

引き続きボトムアップ・アプローチによる銘柄選択が運用戦略の基礎になると考えており、今後もこの戦略が重要だと言えます。こうした戦略のもと、安定的な信用力のある銘柄を見つけることで、ある特定のセクターが悪化したとしても相殺することができると見えています。

今後、米国の金利は緩やかながら上昇していくことが見込まれていることから、金利上昇リスクに強いとされるバンクローン市場がより注目されると考えています。

今後とも「バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2014-09」「バンクローンファンド(為替ヘッジあり) 2015-06」をご愛顧賜りますようお願いいたします。

以上

使用した市場指数について

- BofA・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス(BofA Merrill Lynch US High Yield Constrained Index)は、バンクオブアメリカ・メリルリンチが算出する、米国のハイ・イールド・債券市場全体のパフォーマンスを表す代表的な指数です。当該インデックスに関する一切の知的財産権その他一切の権利はバンクオブアメリカ・メリルリンチに帰属しております。
- S&P500株価指数、S&P各国リート指数は、スタンダード・&・プアーズ ファイナンシャル サービスーズ エル エル シーの所有する登録商標です。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料で、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等を実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドに生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。